

最優秀賞

■詩の部 1点

『未来は変えられる』 中川 莉那 (田布施中学校1年)
 やめようよ。だれかの事を、こそこそ話すのを。
 やめようよ。見て見ぬふりをするのを。
 やめようよ。自分がされていやな事を相手にする事を。
 やめようよ。傷つく一言、言う事を。
 やめようよ。『これぐらいなら。』という思い込みを。
 少しだけ、私が勇気を出したなら、救われる笑顔があるかもしれない。
 少しだけ、私が勇気を出したなら、踏み出せる、一歩があるかもしれない。
 少しだけ、私が勇気を出したなら、変えられる未来があるかもしれない。

■啓発標語の部 1点

『あいさつで 広がる友の輪 地いきの輪』
こうのすけ
 清水 孔之祐 (城南小学校4年)

11月27日(土)に西田布施公民館で『田布施町人権教育推進大会』が開催されました。

大会では、夏休みに町内の小・中・高生から募集した、詩、啓発標語の入賞者を表彰するとともに、入賞作品集を制作し配布しました。

最優秀受賞者は次のとおりです。(敬称略)



- ◇練習日 水曜など
午後7時～午後9時
- ◇場所 西田布施公民館など
- ◇代表者 八石 明 (講師)
- ◇問合せ先 八石 明
☎090-6838-8124



サークルスケッチ

琉球國祭り太鼓 山口支部 ～ぬちかじり～

『イヤヤーサーサー、ハイーヤー、ナーティーチャー、ハイーヤー』
 大きなかけ声とともに太鼓を颯爽と担ぎ、『ぬちかじり(命の限り、一生懸命)』で沖縄音楽を演奏する団体。ただ踊っているのではなく、演舞の中で、なにか言葉にできない感情を伝えようとすると、それが琉球國祭り太鼓です。その歴史は長く、今から約40年前、沖縄県沖縄市の若者を中心に結成されました。

沖縄といえば、その温暖な南国風から観光が注目されがちですが、戦後アメリカの統治下におかれながらも独自の文化、芸能を守り続けるとともに現代に至るまでさらなる発展を続けている地域でもあります。そのバイタリテイに魅了され、現在では沖縄以外にもその文化、芸能が披露される場面が増えていきます。私たち『琉球國祭り太鼓』は、太鼓の活動を通じて沖縄の歴史を知るとともに、その伝統を伝えていきつつ、時代とともに進化する創作芸能団体として日々精進しています。

練習は週に2～3回(新型コロナウィルス感染状況に配慮しながら)、基本のバチ回しから始まり、その後、演舞曲を練習していきます。演舞には空手の型を取り入れており、バチさばきとともに、覚えられるまで何度も何度も。太鼓では約7kgほどの重さがありますので、本気でやればすぐ息が切れてきます。それでも冒頭で話したように、『大切なものを伝えていく団体』を目指して。これからも頑張っていくま

